

特別支援教室「ひまわり」経営の構想	担任	◎森村美和子 村岡健五 林 小織 藤城祐子
-------------------	----	-----------------------

学校教育目標

◎進んで学び、 考えるを高めようとする子 (学ぶ意欲と思考力・表現力)	○認め合い、支え合い、 協力して行動しようとする子 (他者との協働と貢献心)	○心と身体の健康を考え、 進んできたえようとする子 (心身の健康とたくましさ)
---	--	---

教室で目指す子供の姿



得意な事に進んで取り組み、苦手な事にも挑戦する子 (心理的な安定、人間関係の形成)	- 友達と気持ちよく過ごせる子 - 相手の話を聞いて自分の気持ちを伝えられる子 (環境の把握、コミュニケーション)	様々な活動や運動に前向きに取り組む子 (健康の保持、身体の動き)
---	--	--

教室としての方針と重点的な取組



- 自分の好きな事、得意な事を見付け、強みを知り自分の良さを発見できるようにする。 - 苦手に対する具体的な対応方法を一緒に考えたり本人と研究したりし、ICTや教材教具を活用し、自分に合った学び方の工夫をして取り組めるようにする。 - 一人一人が特別支援教室での学習のめあてを、明確にもてるようにし、言語化できるようにする。 - 良い行動を価値付けし、自分で考え、次の活動への意欲をもてるようにする。	- 相手の気持ちや場に応じた適切な行動を考えられるようにする。 - 小集団の仲間と良好な関係作りを行ない、仲間意識をもち自信をもって過ごせるようにする。 - 安心して話せる環境を設定し人前で話す経験を作り、児童が自信をもてるようにする。 - 話型、視覚支援カード、絵、ICTなどを活用し、児童が自分に合った伝え方で考えや表現できるようにする。	- 身体をリラックスさせる運動やボディイメージを育てる運動に取り組むようにする。 - 目と手の協応した動き、姿勢の持続性などについて自己調整できるようにする。 - 自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、対処方法をもつことができるようにする。 - 生活状況を把握し生活リズムや生活習慣を形成できるようにする。
---	--	---

関係者・保護者・関係機関等との連携

■管理職や担任、専科、養護教諭、専門家などとの連携・協力 - 担任・専科・養護教諭・教育相談員と、随時児童の様子を情報交換していく。また、年に5～6回の専門医相談や作業療法指導の機会に専門家からの助言を児童理解や学習内容に反映させていく。 - 通常学級の担任と連携し、通常学級での学習を支援していく。巡回先の教職員と関係性形成を図る。巡回先の校内委員会に週に1回参加し情報共通を図る。	■家庭との連携・協力 - 週1回三角ノートで家庭・担任・特別支援教室の情報交換を行う。 - 年3～4回の個人面談や支援会議で、成長面や課題・次の目標や方針を確認する。それ以外でも随時情報交換を行う。
--	---